

# 旅行商品のタイプ I ラベル認定基準の検討

## Development of type I label certification criteria for travel products

金子 大輝<sup>1)</sup>,

指導教員 稲葉 敦<sup>1)</sup>

1)工学院大学 工学部 環境エネルギー化学科 環境マネジメント工学研究室

キーワード：タイプ I ラベル・旅行商品・認定基準・観光・製品分類別基準

### 1.背景

2016 年度における日本人による国内旅行者数は約 6 億 4 千万人であり、2011 年度比で約 1.05 倍とほぼ横ばいとなっている<sup>1)</sup>。しかし、2016 年度における訪日外国人旅行者数は約 2 千 4 百万人で、2011 年度比で約 3.87 倍に増加している<sup>2)</sup>。2020 年の東京オリンピックが開催されることから、今後さらに訪日外国人旅行者が増加すると予想され、環境影響の低い国内旅行を推奨していくことが望まれる。また、既往研究<sup>3)</sup>において、日本エコツーリズム協会のエコツアー総覧に掲載されているエコツアー 1000 件の分析結果から、日本のエコツアーは CO<sub>2</sub> 排出削減を明確にしたツアーがないことが明らかになった。

したがって本研究では、環境負荷の少ない旅行商品を提供するために、消費者に認知度の高く、タイプ I ラベルであるエコマークを導入し、この認定基準について検討することを目的とする。

### 2.研究手順

#### 2.1 タイプ I ラベルの認定基準の作成<sup>4)</sup>

認定基準は旅行の 4 要素である移動・宿泊・食事・観光に分けて項目を作成し、さらにこれらを定量的評価、定性的評価の 2 項目に分けた。認定基準の項目はエコツアー総覧の推進や、エコツーリズムの定義をしている環境省の政策を始め、ホテルのタイプ I ラベル認定基準、GNP の「ホテル・旅行」エコチャレンジ・チェックリストを参考にして作成した。

#### 2.2 旅行における CO<sub>2</sub> 排出量の算定

算定方法は既往研究<sup>5)6)7)</sup>をもとに、移動・宿泊・食事・観光の 4 要素に分け、下記の式で行う。

移動：移動距離[km] × 交通機関の原単位  
[kg-CO<sub>2</sub>/km]

食事：食材の重量[kg] × 食材の原単位 [kg-CO<sub>2</sub>/g]

宿泊：y:一人当たりの CO<sub>2</sub> 排出量 [kg-CO<sub>2</sub>]

x : 客室数 算定式 : y=0.0534x

観光 : y:年間 CO<sub>2</sub> 排出量 [kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>]

x:延床面積[m<sup>2</sup>] 算定式 : y=0.2621x

#### 2.3 ケーススタディ

2.1 で定めた基準項目をもとに、実際に販売されている旅行商品を対象に評価を行った。

### 3.研究結果

#### 3.1 認定基準の提案

認定基準は、環境方針やリサイクルなど身近に行える活動、定量的な算定を必須項目とし、その他を推奨項目に分け、必須項目は定性的項目が 4 項目、定量的項目も 4 項目とした。推奨項目は定性的項目が 71 項目あり、合計で 79 項目を用いて評価を行った。

定性的評価の必須項目を表 1 に示し、推奨項目の各項目の概要を表 2 に示す。認定基準としては、該当する項目の合計点数の半分以上の点数を獲得できるツアーをタイプ I ラベルの認定ツアーとすることにする。配点は原則として各項目を 1 点とし、次の考え方にてはまる項目

を 2 点とする。

- 1) 環境への影響が大きく、取り組みによる改善効果が大きいと考えられる項目
- 2) 取り組みが組織や他の取り組みに与える波及効果・影響度が大きいと考えられる項目
- 3) 創意工夫や積極的な設備投資など先進的な取り組みと考えられる項目
- 4) 本研究における調査結果から排出削減が必要されるべき箇所

表 1 定性的評価の必須項目

各要素	内容
申請者の取り組み	ツアー内容が大項目の分類に該当すること
食事の項目	宿泊先、あるいは外食先の食材の在庫管理によるデッドストックの防止、宿泊予約数に合わせての調理量の調整、調理時の残り物の有効活用などにより、厨芥・残飯の発生抑制に取り組んでいる
宿泊の項目	宿泊先が利用客の持ち込んだごみを分別・リサイクルしている 宿泊先が環境法規の順守

表 2 各項目の概要

各ツアーの算定	
各要素	小項目
申請者の取り組み (合計8点)	申請者の取り組み [6項目] ×1 地域の環境活動等 [1項目] ×2
移動の項目 (合計10点)	レンタカー [3項目] ×2 運転方法 [2項目] ×2
食事の項目 (合計19点)	廃棄物処理 [4項目] ×1 食材・調理 [3項目] ×1 エネルギー [2項目] ×2 環境美化活動 [2項目] ×2 リサイクル [4項目] ×1
宿泊の項目 (合計38点)	アメニティ [9項目] [8項目×1][1項目×2] リサイクル [4項目] ×1 エネルギー [12項目] ×1 客室ごとの空調管理 [1項目] ×1 環境美化活動 [6項目] ×1 その他 [3項目] ×1
観光の項目 (合計11点)	観光活動 [2項目] ×1 エネルギー [6項目] [5項目×1][1項目×2] リサイクル [1項目] ×2

### 3.2 ケーススタディ

認定基準をもとに、実際の売られているツアー2件を対象に評価を実施した。ホテルやレストラン等の情報はインターネットを用いて調査した。

表 3 ケーススタディ

番号	各ツアーの場合	各ツアー名
①	宿泊× 観光×	とろけるおいしさ♪トロゆば体験＆さくらんぼ狩りと東洋のナイアガラ吹割の滝
②	宿泊○ 観光○	『お手頃価格 フリープラン京都』往復JR利用 京都タワーホテル

表 4 調査結果

各ツアーの場合	①	②
申請者の取り組み	8/8	8/8
移動の項目	4/10	10/10
食事の項目	2/19	4/19
宿泊の項目	無し	1/37
観光の項目	無し	0/11
合計得点	14/37	23/85

表 4 より今回の評価ではどちらのツアーも合計得点の半分以上を獲得できなかったため、エコマークを認定できないという結果になった。

### 4.まとめ及び今後の課題

本研究ではホテルのタイプ I ラベル認定基準等を用いてツアーの認定基準を作成し、これを用いて実際に販売されているツアー2件を評価した。しかし、どちらのツアーも取得点数が足りず、エコマークを認定することができなかった。

実際のツアーを評価したことにより、3.1 で作成した認定基準には、以下に示すような課題が見つかった。

- ①サイトやパンフレットではホテル、食事、移動、観光施設の詳細な情報が公開されておらず、不明瞭な点が多かった。
- ②必須項目より「ツアーの大項目の分類に該当するものであること」では、ツアーがエコツアーの分類に該当してなければならなく、一般的なツアーを評価できないのではないかと考えられる。
- ③移動に関する項目にはレンタカーを使用する場合のみの評価項目であった為、その他、公共交通機関を用いた場合の評価項目が必要である。
- ④観光に関する項目には観光施設を利用する場合の項目しか設けておらず、観光施設を利用しない場合の評価項目が必要である。

今後も上記の課題を解決するために検討を行っていきたい。

### 5.参考文献

- 1)観光庁<<http://www.mlit.go.jp/kankochō/>>
- 2)日本政府観光局  
<<http://www.jnto.go.jp/jpn/index.html>>
- 3)吉田知史 工学院大学卒業論文 (2011) P.3-77
- 4)風間理応 工学院大学卒業論文 (2011) P.10-32
- 5)玉利有香 工学院大学卒業論文 (2011) P.97-100
- 6)桜庭愛美 工学院大学卒業論文 (2014) P.38-52